

進学にかかるお金の話

(NPO法人) 日本ファイナンシャル・プランナーズ協会
新潟支部 幹事 松山 豊明
ファイナンシャル・プランナー(CFP®認定者)



大学入学から卒業までにかかる主な費用の金額例

文科省「私立大学入学者に係る初年度学生納付金平均額2019年度版」

費用	私立文系	私立理系	私立医歯系(6年)
①入学金	228,262円	255,566円	1,073,083円
②授業料	793,513円	1,116,880円	2,867,802円
③施設設備費	150,807円	177,241円	862,493円
初年度学校納付金 ①+②+③	1,172,582円	1,549,688円	4,803,378円
2年目以降の学校 納付金②+③	944,320円	1,294,121円	3,730,295円
卒業まで合計	4,005,542円	5,432,051円	23,454,853円

国立大学の場合(標準額)

費用	国立	国立医歯系(6年)
①入学金	282,000円	282,000円
②授業料	535,800円	535,800円
③施設設備費	—	—
初年度学校納付金 ①+②	817,800円	817,800円
2年目以降の学校納付金 ②	535,800円	535,800円
卒業まで合計	2,425,200円	3,496,800円

東京都専修学校各種学校協会「2020年度学生・生徒納付金調査」①

(単位：千円)

		入学金	授業料	実習費	設備費	その他	合計
工業関係	土木・建築・測量	193	676	52	280	31	1,232
	自動車整備	192	454	260	253	61	1,221
	情報処理、IT	169	602	131	286	27	1,214
	電気、電子、機械、その他	227	602	93	246	52	1,219
	ゲーム、CG	193	636	156	370	9	1,364
	その他	230	728	95	301	73	1,427
農業関係	バイオテクノロジー、その他	169	541	244	275	19	1,249
医療関係	看護	178	679	37	131	61	1,086
	臨床検査、診療放射線、臨床工学	253	731	238	150	68	1,439
	理学療法、作業療法	347	945	172	249	61	1,773
	柔道整復	288	979	85	152	21	1,525
	はり・きゅう・あんまマッサージ指圧	398	1,086	48	185	23	1,739
	歯科衛生、歯科技工	224	676	189	33	68	1,190
	その他	181	969	53	126	187	1,515



東京都専修学校各種学校協会「2020年度学生・生徒納付金調査」②

(単位：千円)

		入学金	授業料	実習費	設備費	その他	合計
衛生関係	栄養、調理	181	604	346	192	80	1,404
	製菓	210	681	558	194	114	1,756
	理容・美容	117	557	205	197	226	1,302
	その他	125	622	280	273	175	1,475
教育・社会福祉関係	保育・教育	148	661	55	163	46	1,073
	介護福祉	138	637	89	126	37	1,027
	社会福祉	108	892	102	45	113	1,260
	その他	137	591	127	74	58	987
商業実務関係	簿記・ビジネス・IT	169	624	65	148	31	1,037
	旅行・ホテル・観光	134	811	76	193	32	1,246
	医療秘書、医療管理事務	98	714	110	159	54	1,135
	その他	114	712	135	139	97	1,196
服飾・家政関係	被服・家政	197	624	32	174	101	1,128

東京都専修学校各種学校協会「2020年度学生・生徒納付金調査」③

(単位：千円)

		入学金	授業料	実習費	設備費	その他	合計
文化・教養 関係	語学	131	888	8	137	21	1,184
	美術、デザイン、写真	161	708	112	186	24	1,191
	音楽、演劇、映画、放送	175	729	116	350	6	1,376
	法律行政	179	617	31	128	94	1,050
	スポーツ	143	698	77	196	91	1,204
	動物	188	616	182	275	56	1,318
	アニメ、声優、ゲーム	160	713	84	299	6	1,261
	その他	142	708	68	197	54	1,170
	日本語科	87	693	34	55	23	891

大学受験料の目安

大学入学共通テスト(3教科以上受験)	18,800円
大学入学共通テスト(2教科以下受験)	12,800円
国公立大学2次試験	約17,000円
私立大学	35,000円程度
私立大学(医歯系)	50,000～60,000円
大学入学共通テスト利用入試	15,000～20,000円

- 大学によっては、学科の併願や同じ学科の複数日程の受験をすることで受験料を減額(免除)する場合があります
- 遠隔地の大学受験は交通費や宿泊代がかかるが、地方の会場(新潟市)で試験を行う場合がある



受験にかかるお金のシミュレーション

地元国立大学 1校 遠方の私立大学 3校	
願書代	$1,000\text{円} \times 4\text{校} = 4,000\text{円}$
大学入学共通テスト受験料	$18,800\text{円} \times 1\text{回} = 18,800\text{円}$
国立大受験料	$17,000\text{円} \times 1\text{回} = 17,000\text{円}$
私立大受験料	$35,000\text{円} \times 3\text{校} = 105,000\text{円}$
交通費往復(遠方)	$30,000\text{円} \times 3\text{回} = 90,000\text{円}$
宿泊費	$8,000\text{円} \times 3\text{回} = 24,000\text{円}$
合計	258,800円



入学納付金の準備時期

(文科省「2020年度国公立大学入学者選抜実施状況(入学者数)」)

区分	総合型選抜入試 (旧AO入試)	推薦入試	一般入試
国立大学	4.2%	12.4%	83.0%
公立大学	3.3%	25.3%	71.0%
私立大学	12.1%	44.4%	43.3%



入学納付金の準備時期

一般的な入試スケジュール

総合型選抜(旧AO入試):8月～10月

学校推薦型選抜:11月～12月

大学入学共通テスト:1月

国公立2次試験&私立大学一般選抜:2月～3月

私立大学の入学金の納付期限

合格発表後10日～2週間以内

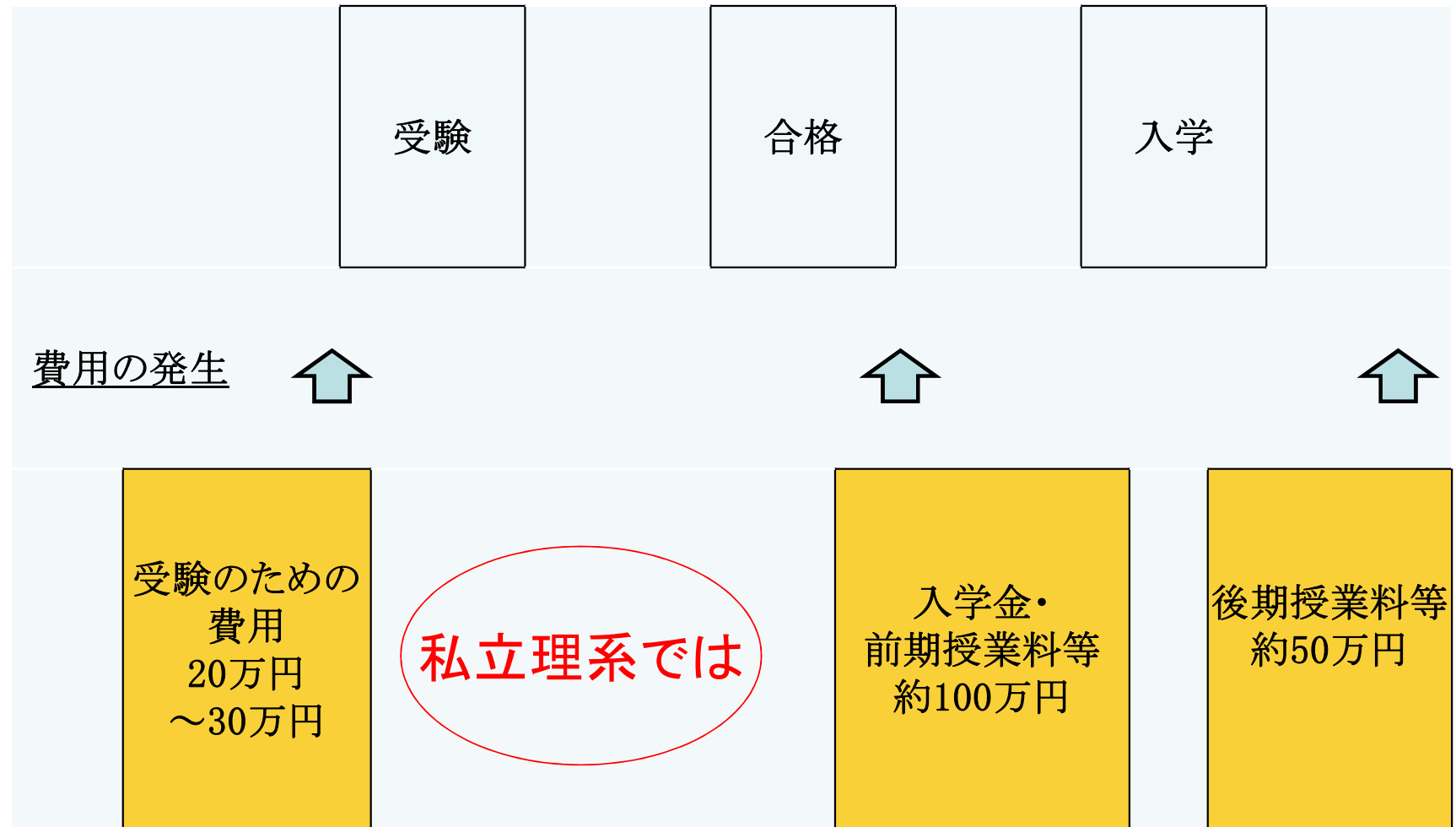
総合型選抜の場合:9月には100万円近い入学金が必要になる

奨学金は間に合わない

金融機関の教育ローンの相談は、受験が決まった段階で相談に行く



お金の支払いはいつ？



大学生生活にかかるお金(日本学生支援機構2018年度)

(月額、単位：円)

		国立・自宅生	国立・下宿生	私立・自宅生	私立・下宿生
収入	家庭からの給付	51,375	97,108	88,883	142,100
	奨学金	17,533	26,492	28,858	35,767
	アルバイト	32,508	28,750	37,108	31,525
	定職収入・その他	3,667	2,958	3,583	4,117
	収入合計	105,083	155,308	158,432	213,509
支出	授業料	41,300	41,092	86,642	93,333
	その他納付金	975	717	13,675	13,858
	修学費	3,908	4,192	3,750	3,875
	課外活動費	4,042	4,217	2,400	3,150
	通学費	8,042	950	8,083	2,025
	食費	9,308	24,900	8,725	23,458
	住居・光熱	0	42,258	0	38,200
	保健衛生	2,983	3,083	3,325	3,233
	娯楽・嗜好費	11,825	12,550	12,650	13,325
	その他日常費	11,142	13,192	11,650	13,483
	支出合計	93,525	147,151	150,900	207,940



他にもかかる費用

学費や生活費以外に

①入学しなかった大学への支払い

複数校受験した結果、合格したけれど入学しなかった大学への支払いが30万円～50万円程度

②アパートなどの費用

自宅以外に住む場合は、住居を借りる費用や家財を用意する費用として50万円程度

③教材費

パソコン(初年度)を含む教材費として20万円程度

④ゼミの合宿

3年生から(大学によっては1年生から)、ゼミの進め方によっては合宿の研修があり、教材費、交通費、宿泊費(飲食費も)など

⑤友人との旅行

友人との国内旅行や海外旅行

⑥下宿生の場合は帰省費用

下宿生の場合は、夏休みや年末に帰省費用

⑦運転免許取得

学生時代に車の運転免許を取得する場合

⑧各種スクール通学

スキルアップを目指して、各種スクールに通学する学費

⑨留学費用

海外の学校に留学する場合に、渡航費や滞在費、学費

高等教育の修学支援制度①(2022年3月卒業生向け)

ポイント	【支援対象となる学校種】 大学、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)				
	【支援対象となる学生】 ①収入基準:住民税非課税世帯及びそれに準ずる世帯 ②資産基準:奨学金申し込み本人と生計維持者(2人)の資産額合計が2,000万円未満 奨学金申し込み本人と生計維持者(1人)の資産合計額が1,250万円未満				
	【支援内容】 ①授業料等減免 ⇐ (国が各学校に給付) ②給付型奨学金の支給 ⇐ (日本学生支援機構が各学生に支給)				
	【スケジュール】 2021年春頃 予約採用の手続き開始(在学する高校で) 2022年4月以降 学生への支給開始				
	各大学等が、以下の上限額まで授業料等の減免を実施、減免に要する費用を公費から支出				
①授業料等 減免		国公立		私立	
		入学金	授業料	入学金	授業料
	大学	約28万円	約54万円	約26万円	約70万円
	短期大学	約17万円	約39万円	約25万円	約62万円
	高等専門 学校	約8万円	約23万円	約13万円	約70万円
	専修学校	約7万円	約17万円	約16万円	約59万円

高等教育の修学支援制度②

②給付型 奨学金 (日本学生支援 機構が支給)	第Ⅰ区分の給付額(月額)			
	国公立:大学、短期大学、専修学校 高等専門学校	自宅生:29,200円 自宅生:17,500円	下宿生:66,700円 下宿生:34,200円	
	私立:大学、短期大学、専修学校 高等専門学校	自宅生:38,300円 自宅生:26,700円	下宿生:75,800円 下宿生:43,300円	
住民税非課税 世帯に準ずる 世帯の学生				
	給付型奨学金 第Ⅰ区分			
			2/3 第Ⅱ区分	
	授業料等減免 第Ⅰ区分	2/3 第Ⅱ区分	1/3 第Ⅲ区分	
			1/3 第Ⅲ区分	
	(年収目安)	271万円	303万円	378万円
両親・本人・中学生 家族4人世帯の場合の目安 毎月の支給額は、前年の所得額に基づき毎年度秋頃に見直される				

所得基準に相当する目安年収(例)

		住民税非課税	準ずる世帯	
		第Ⅰ区分	第Ⅱ区分	第Ⅲ区分
	支援額	3/3	2/3	1/3
母(一人親)	本人、母(★)	207万円	298万円	373万円
	本人、母(★)、中学生	221万円	298万円	373万円
両親 (★給与所得者) (年間収入)	本人、親①(★)、 親②(無収入)、中学生	271万円	303万円	378万円
	本人、親①(★)、 親②(給与所得者)、中学生	親①221万円	親①242万円	親①320万円
		親②115万円	親②155万円	親②155万円
	本人、親①(★)、親②(パート)、 大学生、中学生	親①321万円	親①395万円	親①461万円
		親②100万円	親②100万円	親②100万円
日本学生支援機構「進学資金シミュレーター」で個別世帯の年収等を基に給付奨学金の対象になるか大まかに調べることができます https://www.jasso.go.jp/shogakukin/oyakudachi/shogakukin-simulator.html				



高等教育の修学支援制度③

支給対象者の要件	①申し込み時点で全履修科目の評定平均値が5段階評価で3.5以上 ②①に該当しない場合、レポート等で本人の学修意欲を確認 ③大学等へ進学後の学修状況に厳しい要件
大学等の要件	国または自治体による要件確認を受けた大学等が対象 ①学問追求と実践的教育のバランスが取れた大学等 ②経営に課題のある法人の設置する大学等は対象外

日本学生支援機構(大学・短大・高専・専修学校(専門課程)、学生本人が契約)

第1種奨学金 (貸与型)	利息	無利息
	要件	①高校での申し込み時迄の成績が5段階評価で平均3.5以上 ②所得の上限(4人世帯目安) ・給与所得者:年収747万円以下程度 ・給与所得者以外:所得349万円以下程度
	貸与月額	①自宅通学 :国公立大学、専修学校20,000円～45,000円 :私立大学20,000円～54,000円、短大・専修学校20,000円～53,000円 ②自宅外通学:国公立大学、専修学校20,000円～51,000円 :私立大学20,000円～64,000円、短大・専修学校20,000円～60,000円
第2種奨学金 (貸与型)	利息	①有利息(在学中分は無利息) 3%上限(概ね1%程度) ②利率固定方式と利率見直し方式を申し込み時に選択 ③利率は卒業時に決定 ・2021年6月末貸与終了者向け固定方式の利率は0.268% ・2021年6月末貸与終了者向け利率見直し方式の利率は0.003%
	要件	①高校での申し込み時迄の成績が5段階評価で平均水準以上 ②所得の上限(4人世帯目安) ・給与所得者:年収1,100万円以下程度 ・給与所得者以外:所得692万円以下程度
	貸与月額	①20,000円～120,000円で10,000円きざみの月額の中から選択 ②私大医・歯学課程120,000円を選択した場合40,000円増額可 ③私大薬・獣医学課程120,000円を選択した場合20,000円増額可

入学時特別増額貸与奨学金

- ①入学時特別増額貸与有利子(第二種奨学金貸与利率+0.2%)奨学金は、
毎月の奨学金と併せて進学後に一回限り貸与される
- ②単独での利用は出来ない
 - イ:第一種奨学金 又は 第二種奨学金 申し込み時
 - ロ:第一種奨学金 + 第二種奨学金 併用貸与申し込み時
に併せて申し込んだ場合で
- ③日本政策金融公庫の国の教育ローンを
 - イ:申し込んだが、低所得等を理由に利用出来なかった世帯
 - ロ:日本学生支援機構から日本政策金融公庫の国の教育ローン申し込みが
不要とある世帯
が申し込むことが出来る
- ④貸与額は10万円～50万円(10万円単位)

日本学生支援機構

奨学金の申し込み時期(2022年3月卒業生向け)

予約採用申込	在学採用申込
在学高校 <u>3年生春頃</u> 第一種貸与型 第二種貸与型 給付型	進学先 <u>1年生4月</u>

日本学生支援機構：奨学金の保証制度

万一延滞した場合に備えて、保証制度を決めておきます。

機関保証

保証機関に一定の保証料を支払い、連帯保証を受けます。
延滞が進んだ場合、保証機関がいったん返還をしますが、本人の返還義務がなくなるわけではなく、その後、保証機関にお金を返す必要があります。

※所得連動返還方式(第一種奨学金のみ選択可)を選択した場合は、「機関保証」の選択が必要

人的保証

連帯保証人(父母)および保証人(おじ・おば等)を依頼し、その人による保証を受けます。

奨学金の返還額

参考：日本学生支援機構の貸与型奨学金 4年制大学の場合

①第一種 奨学金(4年／48カ月の場合・無利息)

	貸与月額	貸与月数	貸与総額	返還月額	返還回数	返還年数
自宅	54,000円	48カ月	2,592,000円	14,400円	180回	15年
自宅外	64,000円	48カ月	3,072,000円	14,222円	216回	18年

②第二種 奨学金(4年／48カ月・年利3%の場合)

貸与月額	貸与月数	貸与総額	返還総額	返還月額	返還回数	返還年数
30,000円	48カ月	1,440,000円	1,761,917円	11,293円	156回	13年
50,000円	48カ月	2,400,000円	3,018,568円	16,769円	180回	15年
80,000円	48カ月	3,840,000円	5,167,586円	21,531円	240回	20年
100,000円	48カ月	4,800,000円	6,459,510円	26,914円	240回	20年
120,000円	48カ月	5,760,000円	7,751,445円	32,297円	240回	20年

【出典】日本学生支援機構ホームページ

奨学金の返還額

参考：日本学生支援機構の貸与型奨学金 短大・専修学校の場合

③第一種 奨学金(2年／24カ月の場合・無利息)

	貸与月額	貸与月数	貸与総額	返還月額	返還回数	返還年数
自宅	53,000円	24カ月	1,272,000円	8,833円	144回	12年
自宅外	60,000円	24カ月	1,440,000円	9,230円	156回	13年

④第二種 奨学金(2年／24カ月・年利3%の場合)

貸与月額	貸与月数	貸与総額	返還総額	返還月額	返還回数	返還年数
30,000円	24カ月	720,000円	833,004円	7,713円	108回	9年
50,000円	24カ月	1,200,000円	1,448,002円	10,055円	144回	12年
80,000円	24カ月	1,920,000円	2,349,227円	15,059円	156回	13年
100,000円	24カ月	2,400,000円	3,018,568円	16,769円	180回	15年
120,000円	24カ月	2,880,000円	3,672,102円	19,125円	192回	16年

【出典】日本学生支援機構ホームページ

日本政策金融公庫(国の教育ローン、両親が契約)

融資限度額	学生一人につき:350万円まで(入金までの日数20日程度)
金利	固定:年1.66%(2021年5月6日現在、保証料別) 母子・父子家庭又は世帯年収200万円(世帯所得132万円)以下の場合は年1.26%
返済期間	最長15年(交通遺児・母子家庭は18年以内) 在学期間中は元金据置、利息だけ返済可能
親の年収要件	①子供一人:790万円(所得600万円)以内 ②子供二人:890万円(所得690万円)以内 ③子供三人:990万円(所得790万円)以内 ④子供四人:1,090万円(所得890万円)以内 ⑤子供五人:1,190万円(所得990万円)以内

新潟県の奨学金(参考:2020年)

新潟県 『貸与型 奨学金』 (大学・短大・ 専修学校(専 門課程))	『出願資格』 ①新潟県内居住者の子弟であること ②高校在学の者・予約採用(3年生の12月頃)、進学先在学の者・在学採用(6月頃) ③人物、学力ともに優秀で、経済的理由により修学が困難な者 ④日本学生支援機構の第一種奨学金(無利子)との併用不可			
	《所得基準の目安・学力基準》			
	大学・短大・ 専修学校	年収・所得基準		学力基準
		予約採用時	在学採用時	予約採用 申し込み時点までの 成績評定
		給与収入300万円以下 所得200万円以下	大学・短大 収入900万円以下 (所得410万円以下) 専修学校 収入850万円以下 (所得380万円以下)	進学後の在学採用 在学採用での成績評定 1年生は高校での評価同左 2年生以上は良又はB以上が 全履修科目の50%超
	《貸与月額(無利子)》			
		国公立(国内)		私立(国内)
		自宅	自宅外	自宅 自宅外
	大学	41,000円		44,000円 51,000円
	短期大学・専修学校(専門課程)	41,000円		43,000円 48,000円
	『返還方法』 ①卒業後8カ月間据え置き後、最長15年以内に返還 ②半年賦(12月と6月)、年賦(12月)より選択		『入学時一時金(予約採用のみ)』 10万円～50万円から選択(10万円単位)	

新潟県の助成金(母子・父子・寡婦福祉資金貸付金)

《貸付内容》		
資金種類	貸付対象	貸与期間、返済
修学資金	①高専、短大、大学、大学院、専修学校 ②授業料、書籍代等	①修学期間内 ②無利子 ③卒業後6か月間据置、原則15年以内に返済
就学支度資金	就学、修業するために必用な被服等の 購入資金	①無利子 ②卒業後6か月間据置、原則10年以内に返済
《修学資金貸付限度額》月額		
学校種別	国公立	私立
専修学校(専門課程)	自宅通学67,500円 自宅外通学78,000円	自宅通学89,000円 自宅外通学126,500円
大学	自宅通学71,000円 自宅外通学108,500円	自宅通学108,500円 自宅外通学146,000円
大学院(修士課程)	132,000円	
大学院(博士課程)	183,000円	
《就学支度資金限度額》		
学校種別	国公立	私立
大学、短期大学、専修学校(専門課程)	自宅通学410,000円 自宅外通学420,000円	自宅通学580,000円 自宅外通学590,000円
大学院	380,000円	590,000円

社会福祉協議会

資金の種類	教育支援費	就学支度費
貸付対象費用	《就学に必要な経費》 授業料、学校納入諸経費、参考書、学用品、交通費	《入学に際し必要な経費》 ①入学金等で入学時の学校に納入する経費 ②制服、靴、体操着等で学校の指定により入学時に購入するもの ③教科書、参考書等で入学時に一括して購入するもの ④50万円以内
貸付限度額	①高等学校:月額35,000円以内 ②高等専門学校:月額60,000円以内 ③短期大学・専修学校専門課程:月額60,000円以内 ④大学:月額65,000円以内 ＊特別の場合は上記の1.5倍以内	
	申込金額は千円未満切り捨て	
返済&利子	①返済期限は、卒業後6か月後(据え置き期間)から20年以内 ②貸付利子は無利子	
その他	①他の貸付制度(日本学生支援機構の奨学金等)を利用できるときは、他の制度を利用する ②母子家庭、父子家庭、寡婦世帯は同等の内容がある「母子父子寡婦福祉資金」の利用を確認する ③申し込みは進学先に合格決定後	

卒業後、収入と支出のバランスは？

(支出「総務省統計局家計調査2017年単身世帯35歳未満」)

収入		支出	
給与額面	210, 000円	食費	39, 510円
(健康保険料)		住居費	29, 811円
(厚生年金保険料)		水道光熱費	6, 959円
(雇用保険料)		家具・家事用品	3, 339円
(所得税)		被服及び履物	7, 712円
(住民税)		保険医療	3, 627円
		交通・通信	22, 848円
		教養娯楽	17, 155円
		その他	24, 847円
		奨学金返還	〇〇〇円
		貯金	〇〇〇円
手取り収入	168, 000円	支出合計	155, 808円

給与額面に対して、手取りは20%～25%減として考える

最 後 に

- ①居住地の市町村で貸与型や給付型の奨学金があるか確認してみましょう。
- ②進学先の大学、短大、専修学校に授業料減免制度や奨学金があるか確認してみましょう。
- ③県内外民間法人等の奨学金を確認してみましょう。
- ④医師を目指す方で卒業後新潟県内で医師として勤務する方は、新潟県医師養成修学資金制度を確認してみましょう。
- ⑤看護職員を目指す方で卒業後新潟県内で看護業務に従事する方は、新潟県看護職員臨時修学資金制度を確認してみましょう。
- ⑥学費の高い工学部を志望している場合、学費の安い国立私立大学の夜間学部を考えてみましょう。
- ⑦奨学金は、借りられる額ではなく、将来返せる額を考えましょう。
- ⑧学生本人は保護者と、保護者は、学生本人とよく話し合ってください。本人が知らないところで返還必要資金を借りている場合があります。
- ⑨みなさんが、就職して奨学金の返還が始まって途中返還が難しくなったら、借り入れした機関に相談しましょう。